

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分		専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅲ		必修/選択の別		必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時間		前期	教室名	第2校舎302教室
担 当 教 員		伊黒 浩二	実務経験とその関連資格					
《授業科目における学習内容》								
臨床でよく目にする上肢の脱臼の、発生機序、症状、施術方法、経過と予後を学習し、各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断、応急処置について理解し、各損傷に対する、施術の適応の判断ができ、損傷について適切な施術を行えるようになることを目標とする。								
《成績評価の方法と基準》								
・後期末試験:90％ ・各項目ごとの小テスト:10％								
《使用教材(教科書)及び参考図書》								
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) PC、プロジェクター 【参考図書】標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)								
《授業外における学習方法》								
講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。								
《履修に当たっての留意点》								
1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織とは何かなど構造学的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。								
授業の方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる			教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	1年次に履修した講義の復習をしておくこと	
		各コマにおける授業予定	D・手関節部の脱臼 ・機能解剖					
第2回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる			教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	E・手関節部の軟部組織損傷					
第3回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる			教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	2-7. 手・指部の損傷 ・機能解剖					
第4回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる			教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	E・中手指節関節、指節間関節の脱臼					
第5回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる			教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること	
		各コマにおける授業予定	F・手部、指部の軟部組織損傷 G・注意すべき疾患					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肩関節部の軟部組織損傷①		
第7回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肩関節部の軟部組織損傷② F・注意すべき疾患		
第8回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	2-3. 上腕部の損傷 ・機能解剖		
第9回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	C・上腕部の軟部組織損傷 D・注意すべき疾患		
第10回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	2-4.肘関節部の損傷 ・機能解剖		
第11回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肘関節部の軟部組織損傷①		
第12回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	E・肘関節部の軟部組織損傷②		
第13回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習をし次回講義の予習をすること
		各コマに おける 授業予定	F・注意すべき疾患		
第14回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	各項目ごと的小テストを解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	全講義の復習をし前期末試験の準備をしておくこと
		各コマに おける 授業予定	前期まとめと復習①		
第15回	演習 実習形式	授業を 通じての 到達目標	前期履修内容の国家試験に準じた問題が解けるようになる		
		各コマに おける 授業予定	総まとめ		